

清水商會	遠江丸	七月十二日	解散廢船に依る解雇手當	給料二ヶ月分旅費十圓、外に宿泊料三圓支給
明治海運	社船全部	七月十二日	食料補給	遠航船に對して山下汽船並に補給
大信汽船	第二天信丸	七月十四日	日支船員交代	支那人船夫を日本人と代へることとなり解雇手當として給料一ヶ月分旅費費支給
秋田合資	第三萬榮丸	七月十七日	減員反對	貫徹
千代田汽船	富士丸	七月廿五日	機部一名増員要求	火夫一名増員
野口汽船	羽後丸	七月廿五日	遠洋航路割増金要求	従来日割十八錢、十三錢、十一錢、八錢を廿錢、十五錢、十錢に増額、食料金は換算による不足額を支給
直江津商船	米山丸	七月廿七日	最低賃銀不實施	水夫長以下四名に對して最低賃銀實施當時の昭和三年七月一日に遡及して差額合計三百四十五圓支給
樺太汽船	社船全部	七月廿八日	航海手當増額要求	不況の爲低減しおろしを従前通りに復舊
日本船主協會		七月廿八日	防寒手當	樺太一航海に千圓以下五百五十圓
赤井猪三郎	みかど丸	七月廿九日	最低賃銀不實施、海事協同會規定不實施	最低賃銀實施、海事協同會規定實施、乗組員は全部組合員たること
巴組	白山丸	七月三十日	甲機各一名減員反對	減員撤回
小倉汽船	社船全部	七月一日	遠航手當増額要求	現在支給の二割増額
高田商會	瑞鳳丸	七月五日	給料未拂	澤山汽船に經營を引継ぎ未拂給料は兩三日中に支給
山陽社	三陽丸	七月六日	給料支拂延滞	十月分、十一月分給料の内より二千五百圓を即時支給、残額はドックにて支給
吾妻汽船	天吉丸	七月十日	日支船員交代	支那人船員を下船せしめ日本人船員甲、機合計四十二名乗船
大關汽船	吉林丸	七月十五日	廻航條件	水夫長級二圓(食料は一日一圓)、水夫級二圓五十七錢、石炭夫二圓(食料は一日一圓)

太平洋海運	カナヂヤン ウイシナ號	七月二十日	同	水夫長級七十一圓、其他協定
阿部汽船	東洲丸	七月二十日	危険手當	揮發油ドラム八十七圓、箱入百圓五十錢、揮發油二百四十圓八十四錢、平等分配
大連汽船	(内地航路船 六隻)	七月廿二日	食料改善	現品支給を現金支給に改正
日本船主協會		七月廿三日	最低賃銀復舊	三月一日より復舊
日魯漁業	八隻	七月廿四日	休暇中の船員に對する年末賞與支給	支給
千代田汽船	富士丸	七月廿四日	機部一名増員	増員
明治海運	明宇丸	七月廿六日	航路手當増額	山下汽船並に増額
大洋海運	大徳丸	七月廿六日	増員	火夫一名増員
原田汽船	原田丸	七月廿六日	日支船員交代	交代
佐藤商會	カナヂヤン シグナ號	七月六日	廻航手當	水夫長七十五圓以下給料協定、航海手當水夫長十五圓、以下協定、航海手當は會社規定により給支
大洋海運	カナヂヤン レンジャ號	七月六日	同	交替
日成海運	海龍丸	七月十二日	日支船員交替	二名増員
笠原商會	雲洋丸	七月十六日	機部増員	一航海二百圓
阿部汽船	東州丸	七月十八日	防寒手當	協定給料支給、食料二圓増
共榮組	第二長崎丸	七月十八日	給食料	實施團體協約締結
加納汽船	加納丸	七月廿七日	最低給料不實施	